

1. 本園の教育・保育目標

66年間にわたる歳月を、こつこつと積み重ねてきた本園の保育の発展の歴史を礎に、一人ひとりの子供の個性を大切に、独自のカリキュラムにより、21世紀を担う子どもたちに限りない夢と希望を抱いて日々の保育実践を行う。

平成27年4月から、幼稚園と保育園の機能を併せ持つ幼保連携型認定こども園として一体的な教育・保育を行う。

① 教育・保育の基本

家庭や地域社会と連携を図り、保護者の協力のもとに家庭養育の補完を行い、子どもが健康・安全で情緒の安定した生活ができる環境を用意し、自己を十分に発揮しながら活動できるようにすることにより、健全な心身の発達を図る。

② 教育・保育目標

優しさ、思いやり、そして 感謝の気持ちを大切にする基礎を培う。

子どもたちには、それぞれに素晴らしい個性がある。

毎日の生活の中で泣いたり、笑ったり、感動したりしてその可能性を少しずつ育んでいく姿は、私たちに大きな感動と喜びを与える。

子どもたちの未来がもっと豊かに、もっと夢いっぱいになることを願っている。

③ めざす子ども像

- 元気な子ども
- 整理のできる子ども
- 仲のよい子ども
- 考える子ども
- 生きる力を持った子ども

④ めざす保育教諭像

- 豊かな感性と愛情をもった保育教諭
- 知識と技術を持った保育教諭
- 人間性と専門性の向上に努める保育教諭

⑤ 教育・保育の目標

子どもは豊かに伸びていく可能性をそのうちに秘めている。その子どもが、現在最もよく生き、望ましい未来をつくり出す基礎を培うことが教育・保育の目標である。

- ・ 心身の調和のある発達をめざす。
- ・ 日常生活に必要な基本的習慣と態度を養う。
- ・ 集団生活への参加と自主・協調の習得をめざす。
- ・ 正しい「ことばづかい」をめざします。
- ・ 自然や社会事象に対する興味と関心を引き起こす。
- ・ 自由な創作的表現に対する興味を引き出す。

⑥ 教育・保育方法

私たちは心・技・体の一貫保育をめざす。

我が子が生まれ持った素晴らしい個性や素質を大きく育てあげたい。

そんな切実な思いの実現に向かって、橋渡しすることを念頭において保育活動を実践している。

子どもたち一人ひとりの力を実りある確かなものにするために、心・技・体の一貫保育をめざす。

- ・ 子どもを温かく受容し、適切な保護・世話をし、子どもが安定感と信頼感をもって活動できるようにする。
- ・ 子どもの発達について理解し、一人ひとりの特性に応じ、また、発達の課題に配慮する。
- ・ 子どもの生活リズムを大切にし、自己活動を重視しながら生活の流れを安定し、かつ、調和のとれたものにする。
- ・ 子どもの自発的・意欲的に関われるような環境構成と子どもの主体的な活動を大切にし、乳幼児期にふさわしい体験が得られるように総合的に保育する。
- ・ 子どもの相互の集団活動を効果あるものにするように援助する。

2. 本年度、重点的に取り組む目標・計画

- ① 運動遊びや友だちとのコミュニケーションを通して、しなやかな心と体を養う。
- ② 作物の収穫などの豊かな体験活動を通して食の関心を高め、心と体を育てる教育・保育を行う。
- ③ 絵画や造形に取り組み、創造力を伸ばす教育活動を行う。
- ④ 歌や遊戯・劇遊びなどを通して、発達段階に応じた表現力を養う。

【 評価分野 自己分析 】

① 教育・保育計画

保育計画では、0～5歳児までの、各年齢の年間目標や年間指導計画、月指導計画、週指導計画等、基本的な生活習慣と遊びを主体としたカリキュラムにより、本園の教育・保育目標を基本とした教育・保育課程である。幼保連携型認定こども園教育・保育要領の意図するところを配慮した教育・保育課程を限りなく追及していくことであるが、園内研修の時間を十分に取ることができず、完遂したとはいえない。

② 教育・保育の実施と指導

園として、総合的な保育の提供の推進を保育教諭との連携のもと、園児一人ひとりの立場を考えて保育教諭と子ども達が楽しさを共感出来る保育が実施されている。気になる園児の指導については、保護者面談等で家族が心身共に安全・安心で安定した特別な支援を行っていく。個別指導の多様化が進んでおり、明確に把握が難しく現場の負担が大きい。今後、市の子育て世代包括支援センターきらきらや地域の障がい施設のスーパーバイザーと連携して認定こども園として、役割を柔軟かつ円滑に果たしていく。

③ 地域・家庭との連携と支援

家庭との連携では、本園の教育・保育理念に理解が得られており、保護者会支援を頂きながら、生涯における成長の基盤づくりに今後も努力を図る。

また、預かり保育、一時預かり保育、子育て相談等は、利用者に明示し、柔軟に取り組み地域の福祉施設としての機能を十分に果たしていく考えである。

④ 安全・衛生・管理

日常における安全管理、衛生管理には、チェック表など毎日確認し注意を払い、日々意識がマンネリ化しないよう心掛けている。火災訓練は防災（地震・不審者）訓練を含めて毎月1回、実施しているが実施計画の内容に不安あり、今後の課題として残っている。

⑤ 人事管理・労務管理

必要な所に必要な人材を配置し、人材確保と人材育成には充分配慮をしている。職員の資質向上への対応も、率先して外部研修、外部講師による園内研修を受講する体制を取り行っているが園内研修が不十分である。

労務管理においては、就業規則をはじめ、種々の規程を整備して法改正にも対応している。特段の問題は生じてはいない。勤務時間が恒常化しており、人材育成に、今後も取り組んでいく。

⑥ 財務管理と法人管理

財務管理は法人運営上最も重要な位置を占めており、毎年度必要書類を作成して税理士の監査を経るとともに、年3回の法人理事会の中で協議決定されている。

3. 今後の課題と取り組み

- ・ 評価結果の分析を参考にして課題を明確にし、令和2年度も引き続き教育・保育活動や付帯業務等の改善を行う。
- ・ 教育・保育活動や園運営により有益なものとなるよう、更に自己評価の取り組み方を見直し、課題を明らかにする。